

第二次世界大戦に関するドイツの中等学校歴史教科書調査： —イギリスとの比較検討—

World War II in History Education in Germany:
- A comparative analysis with the case of Britain -

柴田 政子
SHIBATA Masako

The purpose of this article is to investigate the teaching of World War II and the National-Socialist State in secondary education in Germany. It traces the shift of the degree of focus on the period of these events within history textbooks which are subject to authorisation by the Ministry of Education of individual *Länder* (states). Simultaneously, it also looks at the teaching plans issued also by the state.

While there are sixteen states in Germany, the article deals with Niedersachsen, a state of the former Federal Republic of Germany (West Germany). The choice is important, because this is the place of the initial academic development of textbook investigation immediately after World War II. There, the famous institution for international textbook research was established. Its aim to develop common historical views among the nations around the world echoed UNESCO's purpose. At the same time, within the state of Niedersachsen, there is a Gymnasium where the observation of the actual classrooms of history teaching is allowed to the author.

A comparative analysis is provided by exploring a number of textbook issues in Britain which are seen from a viewpoint of one of the victorious powers in WWII.

Key words:

history of World War II, overcoming the past (Vergangenheitsbewältigung), school textbook, Germany, Britain

I. 問題の所在

歴史教育は政治教育と密接につながるものである、またはその一環であるという考えがある。また、歴史の解釈は「倫理的判断」(moral judgement)と分けて考えることは現実的ではないという認識がある(Evans 2003; 2004; von Borries 2003)。第二次世界大戦後のドイツ連邦共和国(西ド

イツ)と統一後のドイツ政府は、その政策を通じてこうした考えを体現し、ヨーロッパ近隣諸国との対話を通じて、自国とヨーロッパの歴史に関する共通理解を深める試みを精力的に行ってきた。ホロコーストや第二次世界大戦でのその他の行ないについて政治的・経済的・倫理的責任を認識し、それを後代に継承しようとする、いわゆる「過去の克服」(Vergangenheitsbewältigung)政策は国是とされ、学校教育における歴史教育や政治教育に強く反映されてきた(近藤2005; Meckel 1993; Wolfrum 1999)。

本稿は、そのドイツの歴史教育の足跡の一端を、歴史科教授計画と歴史教科書の中にみる第二次世界大戦の扱いの推移を通じて考察を試みる。具体的には、旧西ドイツに位置するニーダーザクセン州(Land Niedersachsen)の教授計画(Lehrplan)と、教科書認定制度の下で同州が学校での使用を認めてきた教科書の移り変わりを、政治文脈の変遷を視野に入れながら分析を試みる。

ドイツと日本は、大戦での敗北と、各々その後のヨーロッパとアジアの経済復興のために不可欠とされた工業力の潜在性、両地域における戦後の集団安全保障体制での政治的・軍事的重要性、戦後経済の「奇跡」的復興など、両国の戦後の歩みは第二次世界大戦の経験との関連で併置されてきた。政権崩壊でゼロからの出発(ドイツ語で0時を意味するStunde Nullと表される)を経験し、分断された過去と未来の橋を再構築すべく積極的に歴史政策を展開してきた西ドイツは、日本との比較で模範とみなされることが多い(Conrad 2003; Crawford and Foster 2007; 近藤 1998)。

確かにそのドイツでも、戦後初期の「過去との断絶」には、戦犯の釈放にみられるように、ニュルンベルクで受けた勝者による裁きの「近い過去」への反発や、ナチスは既に過去のものとして忘却しようとする「ナチスとの決別」という面があった(Frei 1999: 163-195; König 2003)。また1949年の世論調査では、60%近くのドイツの人々が「ナチズムはその用い方は悪かったが、良い思想である」と答えており、40%以上の人々が「罪より功の方が大きい」と答えている(Bourke 2004: 475)。

しかし、こうした側面を呈しながらも、他方ナチスの政治に対しては明確な否定を国内外に示してきた。少なくとも西ドイツ建国後最初に成立したアデナウアー(Konrad Adenauer, 1949-1963)政権から、国際社会復帰と近隣諸国との外交関係修復における歴史認識の政治的重要性を認識し、それを政策の主題に据えるべきであるという姿勢を示してきた(柴田 2008a)。アデナウアーは、国民全体が負う「集団的責任」(Kollektivverantwortung)の重要性を訴え、この立場は、1949年9月、新たに開かれた議会においても明確にされた(Reichel 1999: 43)。大戦後から冷戦時代、反ユダヤ主義・反ファシズム・反スターリニズム等の葛藤の中で、時にナチスの被害者としての立場をとってきたドイツ民主共和国(東ドイツ)とは異なり、西ドイツではナチスの犠牲となった国や人々と、その歴史について共通の理解を模索してきた。そして、その過去については「国の記憶」を構築することが政治的課題であるという政策は、党派を超えて守られてきた。分断されてきた2つのドイツで、ともに歴史解釈に関する対話が始まったのは、やはり政治文脈と直接関わっている。西ドイツのブランド(Willy Brandt)政権が新しい東方政策(neue Ostpolitik)を打ち出し、東西の歩み寄りが始まったころ、東西の歴史学者の対話も始まった(Berger 2003)。この

ことも、やはり歴史と政治の密接な関係を表していると言える。

II. ドイツの中等教育と教科書

文教問題を含め広く行政に関して地方分権が原則であるドイツでは、州により教育政策や制度も異なり、中等学校の種類も全国的に統一されていないが、一般に複線型学校体系を維持するドイツの中等教育機関は大きく分けて本科学校(Hauptschule)、実科学校(Realschule)、ギムナジウム(Gymnasium)、これら3種をあわせた総合学校(Gesamtschule)がある。本稿ではニーダーザクセン州のギムナジウムにおける歴史教育を対象とする。

東西統一後16ある州の中からニーダーザクセン州を選んだ理由は、第一に、ここにはゲオルク・エッカート・インスティテュート(Georg-Eckert-Institut für internationale Schulbuchforschung)と呼ばれる国際教科書研究所があり、世界各国の教科書の蔵書のみならず、豊富な研究実績へのアクセスが可能だからである。敗戦後、イギリス占領下にあったドイツでナチス時代の教科書改革が行なわれていた時期、再び全体主義や国粹主義に影響されない新しい歴史を教える必要を説いた歴史学者エッカートの功績に因るもので、連合国による占領時代の1946年12月に設立されている。また、実際の教育現場での授業や教育方針について調査するにあたり、同州ヴォルフエンビュテル(Wolfenbütel)市にあるテオドア・ホイス・ギムナジウム(Theodor-Heuss-Gymnasium)の協力が得られることも重要な要因である。

複数の中等学校種のうちギムナジウムを選んだのは、この実践的理由のみではなく、ギムナジウムの学習の量の豊富さと深さが群を抜いているからである。ヨーロッパの伝統的なエリート教育機関として、その教育程度の高さとMens sana in corpore sano(健全な肉体に健全な精神)に表される人格形成の理念は、ヨーロッパのみならず広く西洋世界で長きにわたり評価を受けてきた(Von Sternburg 1904: 365)。こうした知性と教養の本流となる社会的役割を認識する教育は、その社会の秩序や制度、また「社会の良識」の規範となる枠組みをつくる(Aronowitz and Giroux, 1991; Bourdieu and Passeron, 1977: 71-112)。戦後西ドイツの歴史政策(Geschichtspolitik)が、ヴァイツゼッカー(Richard von Weizsäcker)ら「ドイツの良識」と呼ばれる政治・社会のリーダーらによって文字通り導かれてきたことを認めるとするならば、ギムナジウムでの歴史教育を視野から外すことはできない。戦前の複線型学校体系を廃止し、戦後アメリカ占領下で6-3-3単線型学校体系を導入した日本と、公教育が果たす「エリート養成」の社会的役割の認識に大きな相違があると言える(Shibata 2005)。

他方、教科書のしくみには類似点も多い。ドイツにも日本の学習指導要領と似た機能をする教授計画がある。これは州教育省が作成し、教育の目的や方向性をはじめ詳細な教授内容を規定するもので、当然教科書はこの内容に沿うものでなければならない。また教科書が歴史研究者を中心として執筆され、民間の会社によって出版された後、教育省によって「認定」("genehmigte"や"zugelassene"という語が用いられる)を受けなければならない点も日本と似ている。州教育省は認定した教科書を教科書目録に掲載し、これを毎年度更新する。州内の学校はこの中から教科書を

選ぶので、この点は、地方の教育委員会が管轄する全ての学校一律に同じ教科書を採択する日本とは異なる。

日本と同様に、これら出版会社は教科書もしくは学習教材にほぼ集中して事業を展開しているいわゆる教育・教材系出版社で、イギリスのOxford University PressやMacmillanなど幅広い分野で事業を展開する大手商業出版社が教科書も作成するという事情とは異なる。また教室では教科書が主な知識の媒体として用いられるのも、ドイツは日本と似ている。他方イギリスにはそもそも「教科書」の公的規定や審査もなく、他のヨーロッパ諸国と比べても教科書の「ステータス」は比較的低いとされる。教室でも必ずしも1人1冊ずつ使用するわけではなく、隣の生徒と共同で使うこともしばしばである。イギリスの場合、各学校の事務で歴史を担当する課が与えられた予算から、教科書を含めた全ての教材の購入を行う。換言すると、予算の使い道はこの課に一任されており、それが主に教科書に充てられるとは限らない。現実には、限られた予算の中から全ての子どもに1冊ずつ教科書を供与するのは難しく、2001年の調査では、歴史科に関して言うと44%の生徒が他の生徒と1冊の教科書を一緒に使っている。自宅に持ち帰ることも稀で、例えば家庭で教科書へのアクセスがある児童・生徒の割合は、11～14歳で24%、14～16歳で49%とかなり低い(Foster, and Karayianni. 2007: 13)。従って、教科書にある一定の「権威」が携えられている日本やドイツの場合、教科書の内容は教室での教科教育内容との関連性が高いと考えられる。

ただし、教科書が重要な教育媒体になっているとは言え、歴史教育の「実態」を探るのに、教科書だけの調査に限界があるのは言うまでもない。筆者自身の世界史教員としての経験からしても、同じ教科書を用いても、教員の歴史観や力量また時間的制限など物理的条件にも大きく左右される。このことは、戦後まもない1950年代の西ドイツで戦前教育を受けた教員によるドイツ史の授業は、教科書記述に関わらず「ドイツ史の授業は1933年で終わる」ことが多かったという話からもよく理解できる。こうした教科書調査の限界を認めつつ、公教育政策の下で展開されてきた歴史教育の一端を探りたい。

III. ニーダーザクセン州の歴史科教授計画と認定教科書

以下の表は、終戦後から現在までの間に州教育相によって出された教授計画と、認定教科書リストの抜粋である。その時代の歴史教育政策延いては文教政策全体を反映するものとして、新たに認定された教科書のみを表に記載した。従って、同じ教科書もしくはその改訂版が時代を超えて継続して使用されている場合もあり、また2-3年後にはもはや認定されていない教科書もある。書名の邦訳は筆者によるものである。なお、教授計画に関しては第二次世界大戦に関連し、その時代を含むものを太字で標記した。認定教科書に関しては、中世、近代といった各時代を網羅的に扱うのではなく、第二次世界大戦やナチス・ドイツのみを特化して取り上げた教科書を太字で示した。時代によってかなり異なる州文書の表記書式や教科書分類の方法は、できるだけ原資料のそれらに従った。表中「—」は原資料に記載のないことを示している。1.はいまだドイツが連合国軍の軍事占領下にあったものを示し、2.ではドイツ連邦共和国建国以後のものをあげてい

る。なお、執筆者に関しては、姓のみの表記のものを除き、名はイニシャルで示した。

1. 占領期

表1: 教授計画 (1947年、ニーダーザクセン州で戦後初めての教授計画)

学年	履修内容
5年生	時系列に沿った歴史学習の基礎、故郷の歴史
6年生	古代の世界、ローマ人、ゲルマン人
7年生	民族大移動、フランク国、中世
8年生	宗教改革、農民戦争、反宗教改革、30年戦争、ヨーロッパの絶対主義時代、市民の成長
9年生	ウィーン会議、産業革命、高度資本主義時代
10年生	復習

(„Lehrplan für den Geschichtsunterricht in den braunschweigischen Volks- und Mittelschulen“より)

表2: 認定教科書(1945-1949年)

	認定年	出版年	書名	執筆(代表)者	出版社(都市)	学年
1	1949	1948	<i>Wege der Völker, Band 1, Teil II: das Leben in der Vorzeit</i> (『民族の道 第1巻第2部: 有史以前の生活』)	O. Schulz	Pädagog. Verlag Berth. Schulz (Berlin)	-
2	1949	1948	<i>Wege der Völker, Band 1, Teil III: Die Germanen</i> (『民族の道 第1巻第3部: ゲルマン人』)	K. Langosch	“	5
3	1949	1948	<i>Der Aufstieg. Geschichte des Altertums und des Mittelalters</i> (『発展 古代と中世』)	W. Hoffmann; G. Schulz	“	6
4	1949	1948	<i>Ringeln um Freiheit, vom Ausgang des Mittelalters bis zur Revolution von 1848</i> (『自由のための戦い: 中世のはじまりから1848年革命まで』)	H. Scherrinsky, E. Berger; G. Müller	“	7
5	1949	1948	<i>Deutsche Geschichte im europäischen Zusammenhang, Band I: Das Mittelalter</i> (『ヨーロッパの文脈におけるドイツの歴史 第1巻: 中世』)	K. Witte; K. König	Georg Westermann (Braunschweig)	-
6	1949	1948	<i>Deutsche Geschichte im europäischen Zusammenhang, Band II: 1450-1789</i> (『ヨーロッパの文脈におけるドイツの歴史 第2巻: 1450-1789年』)	“	“	-

当時はまだ連合国軍の軍事占領下であり、ドイツ人「再教育」政策の一環として教科書改革が行われた。四連合国による分割統治であったが、ポツダム合意に違反し独自の占領政策をとったソ連と、具体的な改革策に欠けていたフランスを除き、比較的精力的に教科書を含めた教育改革

を行ったのはアメリカとイギリスであった。イギリス軍政府の教育部門も、占領開始からわずか1年後には拒否権だけを保持し撤退帰国しているが、教科書改革は、この二国による共同作業によりナチ時代の教科書について戦後の適正が検査され、改訂または新規作成された(柴田 2008b)。

この時期の教授計画には、第二次世界大戦やナチズム、第三帝国の直接の語はなく、「高度資本主義時代」の項目に、その政治的社会的矛盾の側面として扱われている。州教育省に認定された教科書の表でも、第二次世界大戦やナチス・ドイツを扱う教科書はない。この時代にとって、第二次世界大戦はまだ「歴史」というには余りにも近い過去であつと考えられ、認定教科書が扱う時代やテーマは古代や中世に集中している。

2. ドイツ連邦共和国期

表3：教授計画(1950年代～現在)

表3-1: 1950年

学年	履修内容(キーワード)
10年生	1848年から現在まで 1. ヨーロッパの後進国としてのイタリアとドイツの国家統一 2. 帝国主義と世界大戦 3. ヴァイマル共和国とヴェルサイユ条約による外交の重荷 4. ナチズムの支配 a) ナチズム台頭の温床としての第一次世界大戦後の国際政治関係 b) ヴァイマル共和国の機能不全とその政治空白をついたヒトラー c) 全体主義国家による法治国家原則の崩壊 d) ナチスの外交政策 5. 第二次世界大戦 a) 領土拡張 b) ナチス政治の危機 c) 連合諸国による大西洋憲章、カサブランカ・テヘラン・ヤルタ会議 d) ポツダム合意によるドイツの運命決定

(„Richtlinien für den Unterricht an den Schulen des Landes Niedersachsen: Geschichtsunterricht an höheren Schulen“より)

表3-2: 1957年

学年	履修内容(キーワード)
8年生	1848年から現在まで a) 経済的發展、市民の成長 b) 中部ヨーロッパにおける国民国家の誕生 c) 内政問題 d) ビスマルク e) 帝国主義 f) 第二帝政 g) 第一次世界大戦 h) ヴァイマル共和国 i) 世界恐慌 j) 第三帝国と第二次世界大戦 ヒトラーとナチス、ヴェルサイユ条約破棄、ミュンヘン合意、降伏、1944年7月20日のヒトラーへの抵抗 k) 戦後

(„Lehrplan für Geschichte“より)

表3-3: 1960年 (学年規定なく歴史教育の重点テーマに関する通知のみ)

テーマ	勸告(キーワード)
1	ヨーロッパの優位と第一次世界大戦によるその崩壊
2	ヴァイマル共和国の建設と崩壊
3	法治国家秩序の破壊とナチズムの時代、反ヴェルサイユ、外交政策
4	法治国家秩序再建の試み、ドイツの分断、その原因と結果
5	戦後世界における権利と自由のための戦い

(„Behandlung der jüngsten Vergangenheit im Geschichts- und gemeinschaftskundlichen Unterricht in den Schulen“より)

表3-4: 1963年

学年	履修内容(キーワード)
10年生	1871年から現在

(„Richtlinien für den Unterricht an höheren Schulen: Vorläufige Stoffverteilungspläne für die Fächer Geschichte, Erdkunde, Gemeinschaftskunde, Physik, Chemie, Biologie“より)

表3-5: 1970年

学年	履修内容(キーワード)
10年生	エポックとしての1917年、パリ条約、ヴァイマル共和国、自由民主主義の危機、ドイツとヨーロッパにおけるナチズムの全体主義的支配、ヨーロッパとアジアにおける第二次世界大戦、アメリカとソ連の台頭、国連中心の集団安全保障体制、1945年以降の東西対決、1945年以降のドイツ、ヨーロッパの政治的・経済的統合の試み、中国文化大革命、テラント、植民地の解放、自然科学の発展

(„Allgemeine Richtlinien und Richtlinien für den Unterricht in den Fächern Erdkunde, Geschichte, Sozial- und Gemeinschaftskunde“より)

表3-6: 1983年

学年	履修内容(キーワード)
10年生 (計 60 時間)	<p>14. ソ連におけるロシア革命と発展(計 7 時間)</p> <p>14.1 ロシア革命(3)</p> <p>14.2 スターリン時代のソ連における重要な発展(3)</p> <p>復習と問題練習(1)</p> <p>15. ドイツにおける議会制民主主義: ヴァイマル共和国(15)</p> <p>15.1 1918年の革命と国家の民主化(5)</p> <p>15.2 共和国の重荷と安定(5)</p> <p>15.3 1929年以降の経済的・政治的危機(4)</p> <p>復習と問題練習(1)</p> <p>16. ナチズムと第二次世界大戦(計 17 時間)</p> <p>16.1 ナチスの政権掌握の前史(3)</p> <p>16.2 独裁政権の成立、支配の安定化、戦争準備(4)</p> <p>16.3 ユダヤ人政策と組織的大量殺人(2)</p> <p>16.4 ナチス政権への政治的抵抗運動(2)</p> <p>16.5 第二次世界大戦(4)</p> <p>復習と問題練習(2)</p> <p>17. ドイツの分断とドイツ連邦共和国とドイツ民主共和国の歴史(計 15 時間)</p> <p>17.1 占領統治から両ドイツ国家の建設(5)</p> <p>17.2 同盟システムにおける建設と統合(6)</p> <p>17.3 ベルリン: 封鎖から四連合同意まで(3)</p> <p>復習と問題練習(1)</p> <p>18. 東西対決の形成と発展(計 6 時間)</p>
11年生 (モデル B)	絶対主義と1789年フランス革命から1948年; または イギリス立憲君主国家; または 産業革命
12年生 (モデル B)	<p>前半:</p> <p>1. ヴァイマル共和国とナチズム、ドイツ 1919-1939年</p> <p>2. 18-19世紀の国際国家システムの発展</p> <p>3. ドイツの1814年、1919年、1949年の憲法: 起源、可能性、問題点</p> <p>4. 自由主義、国家思想、権威主義国家 1848-1945年: 近代における「ドイツ特有の道」?</p> <p>後半:</p> <p>1. 帝国主義と第一次世界大戦</p> <p>2. ドイツにおける政党の発達</p> <p>3. 20世紀列強の役割</p> <p>4. 外交政策のライトモチーフとしてのヘゲモニーと勢力均衡(18-20世紀)</p>
13年生 (モデル A)	<p>前半:</p> <p>1. ヴァイマル共和国からナチズムまで</p> <p>2. 例に見るドイツとポーランドの隣国関係</p> <p>3. 1918年以降のドイツの経済発展のおもな特徴</p> <p>4. ヴァイマル共和国とドイツ連邦共和国の国家、社会、経済の比較</p> <p>後半:</p> <p>1. 1945-1949年における両ドイツの成立</p> <p>2. 第二次世界大戦におけるドイツ問題</p> <p>3. 第三世界の成立; 南北問題の原因</p> <p>4. 様々なファシズム理論からみたナチズムの成立</p>

(„Rahmenrichtlinien für das Gymnasium: Klass 7-10, Gymnasiale Oberstufe“より)

表3-7: 1994年

	履修内容(キーワード)
歴史学 習の主 題	人間と自然、人間と社会、平等と不平等、支配と自由、戦争と平和、人間像と世界の理解
歴史研 究の次 元	ジェンダー史、政治史、社会史、経済史、文化史、環境史
調査の 形	遺伝・年代学、縦断面、横断面、個別事例、構造、人物、比較
基本 テーマ 1	<p>「平和、平和と統一についての考察：歴史的経験からみたドイツの視点」例：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統一、平等、自由—1948, 1918, 1989:ドイツにおける革命？ 2. 工業化と民主主義—近代におけるドイツの困難な道のり 3. 解放とジェノサイドの間：19-20世紀のドイツにおけるユダヤ人 4. ナチス・ドイツ：「ドイツ特有の道」の勃興と終焉 5. 1945年以降の2つのドイツ：崩壊したドイツ国民国家に対する回答への試み 6. 近代工業化社会における自由主義的・社会主義的挑戦の影響によるドイツの両性平等への変遷 7. 帝国主義とパートナーシップの間で利害追究するドイツの経済力 8. 19-20世紀の移民の動きを通してみるドイツ社会の変化 9. 戦争と平和：ドイツ国民国家とその近隣諸国との関係 10. ドイツの歴史像の例：歴史の中核となる事象やイデオロギーの伝説 11. 工業資本主義と労働者運動：階級闘争からパートナーシップ思想まで 12. 1949-1989年の近代化と保守主義の間に見るドイツ連邦共和国とドイツ民主共和国における政治文化 13. ドイツにおける社会主義思想：未来の希望、墮落、不信、または根本価値の不変？ 14. ドイツの2つの過去にみる平等と不平等：ナチスとドイツ社会主義統一党支配下の人々 15. 工業化社会の要求の下での法治国家と福祉国家としてのドイツの成長 16. ドイツにおける宗教、教会そして信仰税：世俗国家と信仰の自由に基づく基本的人権 17. ヨーロッパと世界の民族とともに見るドイツ像とその変遷
基本 テーマ 2	<p>「結束と多様性：歴史的経験からみたドイツの視点」例：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世紀の転換期にみるヨーロッパの概念：自己認識とナチズム克服への試み 2. ヨーロッパにおける貧困と富裕：現在の地域的不均衡の歴史的背景 3. 19-20世紀のヨーロッパにおける社会的分化和同化 4. 冷戦の西ヨーロッパから封鎖後ヨーロッパまで：目的設定、社会制度と政治的枠組み変革課題の発達 5. 中世のヨーロッパ：ラテン・キリスト教的西とギリシャ・キリスト教的東の統一と分断—ローマとビザンチン 6. フランス革命以降のヨーロッパにおける国民国家と国境 7. ビザンチン、西ヨーロッパそしてイスラム世界の出会いと紛争の地としてのバルカン半島 8. ヨーロッパの自覚：古代から現在に至るまでの自己と他者が描くヨーロッパ像の継続性と変化 9. ヨーロッパとアフリカ。依存と期待：旧植民地から“被援助国”へ 10. 1492年後の世界のヨーロッパ化：ひとつの文明モデルの地球規模の拡大の有益性と代償 11. 中世におけるギリシャ・ローマ的支配：ヨーロッパの生成？ 12. 1919-1933年：ヴェルサイユ—1945年期から1989年のヨーロッパ：ヤルタ以降のヨーロッパ。協力と対立の比較 13. 隣国関係への道：フランス—ドイツ—ポーランド 14. 初期近代：15世紀と1789年の間における近代ヨーロッパ形成エポック 15. 1945年以降の西ヨーロッパにおける生活文化の発達
基本 テーマ 3	<p>「矛盾の中の一つの世界：歴史的経験からみたグローバルな視点」例：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “発見”と“発見者”：ヨーロッパ支配の要求と方法の衝突にみるコロンブス以前の文明 2. ヨーロッパのための植民地商品：砂糖と第一世界・第三世界の変化にみる例 3. 19世紀以降のアラブのナショナリズム：ヨーロッパの挑戦に対する答えとしての

	<p>アイデンティティの模索</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 南アフリカ:アフリカとヨーロッパの移住とその解決策から発する衝突 5. 19世紀における中国と日本の西洋世界への開国:西洋的工業化世界に関する2つの異なる分析形態 6. イギリス植民地化のインドの国民運動と、インド独立闘争のためのガンディによる文明的抵抗の概念 7. 世界経済と“後進”:世界市場経済における地域格差の発生 8. アメリカ合衆国影響下のラテン・アメリカ:チリの例に見る改革の試みと解決策の失敗 9. モンロー主義影響下のアメリカ合衆国とラテン・アメリカの関係:政治的理想と利害の衝突 10. ピアブラ戦争と紛争解決:内戦状況のモデルケース? 11. 近東と工業国:帝国主知-独立運動-安全保障利害 12. 日本:帝国主義による独立の脅威から、アジア太平洋地域における帝国主義的拡大 13. 19-20世紀における近代工業化社会と非工業化世界の文明 14. 人種差別主義か“植民地的視点”か:啓蒙主義時代以来の“他者”との交流におけるヨーロッパ西洋優越の思想 15. 工業労使関係の影響下の前植民地文明における女性の社会的地位の変化と継続性
--	--

(„Rahmenrichtlinien für das Gymnasium – gymnasiale Oberstufe, die Gesamtschule – gymnasiale Oberstufe, das Fachgymnasium, das Abendgymnasium, das Kolleg“より)

表3-8: 1996年

学年	履修内容(キーワード)
10年生	<p>テーマ 11: 第一次世界大戦後のヨーロッパ新秩序構築の試み ヨーロッパの新しい平和秩序の試み、ソ連の成立と発展、ドイツ初の共和国、戦間期のアメリカ合衆国、戦後のフランス、戦間期のヨーロッパの概念定義</p> <p>テーマ 12: ナチズムのドイツ 権力への道: ナチズムのイデオロギー、反ユダヤ主義、民主主義的価値の否定、社会ダーウィン主義、“生活圏”確保計画、保守勢力との同盟、親衛隊の役割、1933年1月30日、帝国議会炎上、3月選挙、全権委任法、労働組合の破壊、政党の禁止、言語・思想の統制、テロ、プロパガンダ</p> <p>支配のテクニックと迫害: “総統国家”の教育、1934年6月30日の殺人、“歓喜力行団”のような服従確保の政策、“民族共同体”、“ヒトラー・ユーゲント”、学校と教育、政敵の迫害、強制収容所、障害者の殺戮、ホモセクシュアルの迫害、ユダヤ人商店のボイコット、ユダヤ人への差別と迫害、1938年の計画</p> <p>経済・社会政策: 軍備化、労働の獲得、4ヶ年計画、労使関係における“総統”と“服従者”、ナチズム化の女性、ナチス国家とキリスト教教会</p> <p>抵抗運動: 不服従、拒否、脱走、個人の抵抗、禁止された政党による組織的抵抗、教会と軍隊の抵抗、青年と学生の抵抗</p> <p>第二次世界大戦: 外交政策、戦争の拡大と拡散、“総力戦”、強制労働、戦争捕虜、戦争経済、占領政権、パルチザン、占領地域における軍の犯罪、無条件降伏、東アジアの戦場</p> <p>ジェノサイド: 突撃隊国家、人種の優越妄想、ユダヤ人の国外追放と組織的殺戮、強制収容所における恐怖と抵抗、ワルシャワ・ゲットーの蜂起</p> <p>記憶と追憶: イスラエルとその他の民族との和解問題、物質的回復、追放された犠牲者、ドイツ人の自己の過去に対する責任と説明の問題、記念日としての1月27日</p> <p>テーマ 13: ドイツ、ヨーロッパそして二極化する世界 世界の二分、2つのドイツ、衝突と協力、二極化の終り</p> <p>テーマ 14: 一つになった世界が抱える問題 移民、人口増加と食糧問題、グローバル・コミュニケーション社会、忘れられた民族たち、統合と拡散、原理主義と近代の間のイスラム</p>

(„Rahmenrichtlinien für das Gymnasium Schuljahrgänge 7-10 Geschichte“より)

表4：認定教科書(1950年代～現在)

表4-1: 1950年代

	認定年	出版年	書名	執筆(代表)者	出版社(都市)	学年
1	1952	1951	<i>Grundzüge der Geschichte, Band VII. Von Beginn der Französischen Revolution 1789 bis zur Gegenwart</i> (『歴史の主な特徴 第7巻:1789年フランス革命から現在まで』)	Ph. Ernst; Busch	Moritz Diesterweg (Frankfurt/M)	11- 13
2	1952	-	<i>Geschichte im Überblick, Folge 4: Vom ersten Weltkrieg bis zur Gegenwart, 1914-1945</i> (『歴史の概観 シリーズ4:第一次世界大戦から現在まで、1914-1945年』)	Mommsen	Gerhard Stalling (Oldenburg)	11- 13
3	1952	-	<i>Geschichtliches Unterrichtswerk, Ausgabe A, Band V, Weltgeschichte der Zeit von 1914-1945</i> (『歴史の教育教材、A版第5巻:1914-1945年の世界史』)	Tenbrock	Herm. Schroedel (Hannover)	11- 13
4	1952	-	<i>Geschichte, Band 4, Geschichte der neuesten Zeit, 1852 bis 1952</i> (『歴史 第4巻:現代の歴史 1852-1952年』)	Traber	Joh. Borgmeyer (Bonn)	8- 10
5	1952	-	<i>Unterrichtswerk für Geschichte, IV. Band: Neueste Zeit (1848-1945)</i> (『歴史用教育教 第4巻:現代の歴史 1852-1952年』)	Bosl	Lurz (München)	
6	1954	-	<i>Werden und Wirken. Band IV: Die neueste Zeit 1815-1950</i> (『発展と影響 第4巻:現代 1815-1950年』)	E. Vitall; K. Weiler	Braun (Karlsruhe)	11- 13
7	1955	1955	<i>Grundzüge der Geschichte von der Urzeit bis zur Gegenwart</i> (『歴史の主な特徴 原始時代から現在まで』)	Fernis; Haverkamp	Moritz Diesterweg (Frankfurt/M)	11-13
8	1958	1956	<i>Zwölf Jahre Hitlerherrschaft</i> (『12年間のヒトラー政権』)	Schaffbuch	Neckerverlag (Villigen)	全 学校
9	1959	1959	<i>Grundriß der Geschichte, von 1850 bis zur Gegenwart</i> (『歴史の概説 1850年から現在まで』)	Frank; Hofft; Wulf	Klett (Stuttgart)	11- 13

表4-2:1960年代

	認定年	出版年	書名	執筆(代表)者	出版社(都市)	学年
1	1964	1963	<i>Unsere Geschichte 1933-1945, das „Dritte Reich“ in Darstellung und Dokumenten</i> (『私たちの歴史 1933-1945年:図表と文書にみる「第三帝国」』)	Debus; Helbig	Wochenschau Verlag, (Frankfurt/M)	-
2	1964	1964	<i>Grundriß der Geschichte, Ausgabe B, Band II: Die moderne Welt - Von der bürgerlichen Revolution bis zur Gegenwart</i> (『歴史の概説 B版第2巻:現代の世界-市民革命から現在まで』)	Dittrich	Klett, (Stuttgart)	11-13
3	1967	1967	<i>Zeiten und Menschen, Ausgabe B, Band IV: Europa und die Welt des 20. Jahrhunderts</i> (『時代と人々 B版第4巻:20世紀のヨーロッパと世界』)	Immisch	Schroedel, (Hannover)	-
4	1969	1968	<i>Grundzüge der Geschichte Band 4: von 1890 bis zur Gegenwart</i> (『歴史の主な特徴 1890年から現在まで』)	H. Deißler; H. Krieger	Moritz Diesterweg (Frankfurt/M)	-

表4-3:1970年代

	認定年	出版年	書名	執筆(代表)者	出版社(都市)	学年
1	1971	1970	<i>Zeiten und Menschen, Ausgabe G, Band 2: Die geschichtlichen Grundlagen der Gegenwart 1776 bis heute</i> (『時代と人々 G版第2巻:現代の基礎 1776年から今日まで』)	Henbrock	Schroedel, (Hannover)	-
2	1972	1971	<i>Spiegel der Zeiten, Ausgabe B, Band 4: Von der Russischen Revolution bis zur Gegenwart</i> (『時代の鏡 B版第4巻:ロシア革命から現在まで』)	Hoffmann	Diesterweg, (Frankfurt/M)	-
3	1977	1976	<i>Weltgeschichte im Aufriß, Band 3, Teil 1: Vom Ersten Weltkrieg bis 1945</i> (『世界史概説 第3巻、第1部:第一次世界大戦から1945年まで』)	W. Ripper; E. Kaier	Diesterweg, (Frankfurt/M)	11-13
4	1978	1976	<i>Weltgeschichte im Aufriß: Vom Ersten Weltkrieg bis 1945</i> (『世界史概説:第一次世界大戦から1945年まで』)	W. Ripper; H. Meyer	Diesterweg, (Frankfurt/M)	11-13
5	1978	1970	<i>Grundriß der Geschichte, Ausgabe B</i> (『歴史の概説 B版』)	Bonwetsch	Klett (Stuttgart)	11-13
6	1979	-	<i>Völker, Staaten und Kulturen</i> (『民族、国家、文明』)	Stier	-	11-13

表4-4:1980年代

	認定年	出版年	書名	執筆(代表)者	出版社(都市)	学年
1	1980	1978	<i>Spiegel der Zeiten, Ausgabe B: Von der Russischen Revolution bis zur Gegenwart</i> (『時代の鏡 B版:ロシア革命から現在まで』)	Busley	Diesterweg, (Frankfurt/M)	10
2	1980	1977	<i>Grundzüge der Geschichte: von 1890 bis zur Gegenwart</i> (『歴史の主な特徴 1890年から現在まで』)	Kaier	Moritz Diesterweg (Frankfurt/M)	10
3	1980	1979	<i>Fragen an die Geschichte: Die Welt im 20. Jahrhundert</i> (『歴史への問い:20世紀の世界』)	Schmid	Hirschgraben (Berlin)	10
4	1980	1969	<i>Menschen in Ihrer Zeit. Band 4: In unserer Zeit</i> (『あなたの時代の人々 第4号:私たちの時代』)	Bodensiek	Klett (Stuttgart)	10
5	1980	1968	<i>Kletts Geschichtliches Unterrichtswerk, Ausgabe C: Staatensystem und Weltpolitik</i> (『クレット歴史教育教材、C版:国家のシステムと世界の政治』)	Conze	Klett (Stuttgart)	10
6	1980	1978	<i>Zeiten und Menschen, Ausgabe B: Zeitgeschichte (1917 bis zur Gegenwart)</i> (『時代と人々 B版:現代史(1917年から現在まで』)	Tenbrock	Schroedel, (Hannover)	10
7	1980	1976	<i>Weltgeschichte im Aufriß, Band 3/1: Vom Ersten Weltkrieg bis 1945</i> (『世界史概説第3巻第1号:第一次世界大戦から1945年まで』)	Kaier	Diesterweg, (Frankfurt/M)	11-13
8	1980	1978	<i>Weltgeschichte im Aufriß: Probleme des deutschen Nationalstaates</i> (『世界史概説:ドイツ国民国家の諸問題』)	Ripper	Diesterweg, (Frankfurt/M)	11-13
9	1982	1979	<i>Geschichtliche Weltkunde: Von der Zeit des Imperialismus bis zur Gegenwart</i> (『歴史的世界学:帝国主義時代から現在まで』)	Hug	Diesterweg, (Frankfurt/M)	9-10
10	1982	1979	<i>Reihe: Geschichte in Unterrichtsmodellen. Der Nationalsozialismus</i> (『シリーズ:歴史教育モデル ナチズム(国家社会主義)』)	Loch	Frankonius (Dornburg)	7-10
11	1982	1979	<i>Geschichte für Morgen: Zeitgeschichte</i> (『明日への歴史:現代史』)	Heumann	Hirschgraben (Berlin)	10
12	1982	1978	<i>Weltgeschichte im Aufriß, Ausgabe in Themenheften: Der europäische Faschismus</i>	Ripper	Diesterweg, (Frankfurt/M)	11-13

			<i>und das Dritte Reich</i> (『テーマ別冊 世界史概説:ヨーロッパのファシズムと第三帝国』)			
13	1982	1978	<i>Weltgeschichte im Aufriß, Ausgabe in Themenheften: Der europäische Faschismus und das Dritte Reich</i> (『世界史概説 テーマ別冊:ナチズムの外交政策と第二次席大戦』)	Ripper	Diesterweg, (Frankfurt/M)	11- 13
14	1982	1977	<i>Demokratie in Deutschland als Problem und Aufgabe</i> (『ドイツにおける民主主義の問題と課題』)	Großmann	Don Bosco (München)	11- 13
15	1982	1979	<i>Grundriß der Geschichte, Nationalsozialismus und Faschismus</i> (『歴史の概説 ナチズムとファシズム』)	Hey	Klett (Stuttgart)	11- 13
16	1982	1978	<i>Zeiten und Menschen, Ausgabe G: Zeitgeschichte (1917 bis zur Gegenwart)</i> (『時代と人々 B版:現代史(1917年から現在まで』)	Tenbrock	Schroedel, (Hannover)	10
17	1983	-	<i>Geschichtliche Weltkunde: Von der Oktoberrevolution in Rußland bis zur Gegenwart</i> (『歴史的世界学:ロシア 10 月革命から現在まで』)	Busley	Diesterweg, (Frankfurt/M)	10
18	1983	1981	<i>Menschen in Ihrer Zeit. Erinnern und Urteilen 4</i> (『あなたの時代の人々 記憶と判断 4』)	Jahr	Klett (Stuttgart)	10
19	1983	1982	<i>Völker, Staaten und Kulturen</i> (『民族、国家、文明』)	Stier	Westermann (Braunschweig)	10
20	1983	1980	<i>Internationale Beziehungen im 19. und 20. Jahrhunderts, Kurs: Geschichte/Politik. Historische Ausbildung des demokratischen Rechts- und Verfassungsstaates</i> (『19-20世紀の国際関係:歴史・政治学コース 民主主義国家と憲法国家の歴史的教育』)	Pommerin	Schwann-Bagel (Düsseldorf)	11- 13
21	1984	1981	<i>Geschichte 4</i> (『歴史 4』)	Heinloth	List (Berlin)	10
22	1984	1980	<i>Geschichte/Politik - Das nationalsozialistische Regime</i> (『歴史・政治学-ナチス政権』)	Kosthorst	Schöningh (Paderborn)	8- 10
23	1984	1982	<i>Zeiten und Menschen, Ausgabe K: Politik, Gesellschaft, Wirtschaft von 1919-1945</i> (『時代と人々 K版:1919-1945年の政治・社会・経済』)	Tenbrock	Schroedel, (Hannover)	11- 13
24	1988	1987	<i>bsv Geschichte 4N</i> (『bsv 歴史 4N』)	vom Bruch	bsv/Bayerischer Schulbuch-Verlag (München)	10

25	1988	1987	<i>Weimarer Republik - Nationalsozialismus</i> (『ワイマール共和国 - ナチズム』)	Pfändtner	Buchner (Bamberg)	
26	1988	1984	<i>Grundriß der Geschichte, Band 2. Neuzeit seit 1789</i> (『歴史の概説 第2巻: 1789年以降の近代』)	P. Alter; G. Hufnagel; E. Schwalm	Klett (Stuttgart)	11-13
27	1988	1986	<i>Demokratie und Diktatur - Deutsche Geschichte 1918-1945</i> (『民主主義と独裁 - 1918-1945年のドイツの歴史』)	Egner	Schroedel (Hannover)	11-13
28	1988	1984	<i>Internationale Beziehungen im 19. und 20. Jahrhundert</i> (『19-20世紀の国際関係』)	Schoppmeyer	Schwann (Düsseldorf)	11-13
29	1989	1988	<i>Geschichtsbuch, Ausgabe Niedersachsen Band 4: Vom Ende des Ersten Weltkriegs bis heute</i> (『歴史教科書 ニーダーザクセン版 第4巻: 第一次世界大戦の終わりから今口まで』)	P. Hüttenbwerger; B. Mütter; N. Zwälfer	Cornelsen (Berlin)	10
30	1989	1988	<i>Geschichte und Geschehen 10</i> (『歴史と出来事 10』)	Balhausen	Klett (Stuttgart)	10
31	1989	1985	<i>Zeiten und Menschen, Neue Ausgabe B/Niedersachsen Band 4: Zeitgeschichte</i> (『時代と人々 新B版ニーダーザクセン 第4巻: 現代史』)	Goerlitz	Schroedel, (Hannover)	10
32	1989	1983	<i>Zeitaufnahme 3/4</i> (『時代の記録 第3/4巻』)	Graßmann	Westermann (Braunschweig)	9-10
33	1989	1984	<i>Grundkurse Geschichte</i> (『歴史基礎講座』)	Bahr	Winkler (Fellbach)	11-13

表4-5:1990年—現在まで

	認定年	出版年	書名	執筆(代表)者	出版社(都市)	学年
1	1991	1989	<i>Zeiten und Menschen, Ausgabe K: Politik, Gesellschaft, Wirtschaft von 1945 bis zur Gegenwart</i> (『時代と人々 K 版: 1945 年以降の政治・社会・経済』)	Immisch	Schroedel, (Hannover)	11-13
2	1991	1989	<i>Geschichtskurse für Sekundarstufe II Band 4: Weimarer Republik und nationalsozialistische Herrschaft</i> (『ギムナジウム第二段階のための歴史講座 第4巻: ワイマール共和国とナチスの支配』)	Prokasky	Schroedel, (Hannover)	11-13
3	1992	1991	<i>Unsere Geschichte 3. Von der Zeit des Imperialismus bis zur Gegenwart</i> (『私たちの歴史第3巻: 帝国主義時代から現在まで』)	Hug	Diesterweg (Frankfurt/M)	9-10
4	1992	1984	<i>Deutschland im Spannungsfeld der Weltpolitik vom Ende des 1. bis Ende des 2. Weltkrieges</i> (『第一次世界大戦の終わりから第二次世界大戦の終わりまでの世界政治の緊張状態におけるドイツ』)	Brecht	Oldenbourg (München)	11-13
5	1992	1988	<i>Konfrontation und Kooperation</i> (『衝突と協力』)	Egner	Schroedel, (Hannover)	11-13
6	1993	1990	<i>Historisch-Politische Weltkunde: Vom Ancien Regime zur modernen Welt</i> (『歴史・政治学的世界論: アンシャン・レジームから現代世界まで』)	Moser	Klett (Stuttgartart)	11-13
7	1995-6	1993	<i>Geschichtsbuch, Ausgabe Niedersachsen Band 4: Von 1917 bis 1992</i> (『歴史教科書 ニーダーザクセン版第4巻: 1917-1992 年まで』)	Hofacker	Cornelsen (Berlin)	10
8	1995-6	1992	<i>Geschichte der Juden in Deutschland</i> (『ドイツにおけるユダヤ人の歴史』)	Wolffsohn	bsv (München)	11-13
9	1995-6	1994	<i>Buchners Kolleg Geschichte. Von der Französischen Revolution bis zum Nationalsozialismus</i> (『ブフナーの歴史講座 フランス革命からナチズムまで』)	Hirschfelder	Buchner (Bamberg)	11-13
10	1995-6	1993	<i>Buchners Kolleg Geschichte. Reich - Republik - Diktatur</i> (『ブフナーの歴史講座 帝国 - 共和国 - 独裁』)	Hirschfelder	Buchner (Bamberg)	11-13
11	1995-6	1991	<i>Geschichte - Politik und Gesellschaft. Band 1: Von der Französischen Revolution bis zum Ende des 2. Weltkrieges</i> (『歴史 - 政治と社会 第1巻: フランス革命から第二次世界大戦の終わりまで』)	Mickel	Cornelsen (Berlin)	11-13
12	1995-6	1993	<i>Geschichte für Gymnasien II</i> (『ギムナジウムのための歴史』)	Heinloth	Oldenbourg (München)	11

13	1996 -7	1995	<i>Geschichtsbuch Oberstufe Band 2: Das 20. Jahrhundert</i>	Günther-Arndt	Cornelsen (Berlin)	11- 13
14	1996 -7	1995	<i>Geschichte und Geschehen I, Oberstufe Ausgabe A</i> (『歴史と出来事 I ギムナジウム第一段階 A 版』)	Bernlochner	Keltt (Stuttgart)	11- 13
15	1996 -7	1995	<i>Geschichte und Geschehen II, Oberstufe Ausgabe A/B</i> (『歴史と出来事 II ギムナジウム第二段階 A/B 版』)	Ballhausen	Keltt (Stuttgart)	11- 13
16	1997 -8	1995	<i>Buchners Kolleg Geschichte. Vom Zweiten Weltkrieg bis zur Gegenwart</i> (『ブフナーの歴史講座 第二次世界大戦から現在まで』)	Hirschfelder	Buchner (Bamberg)	11- 13
17	1997 -8	1996	<i>Buchners Kolleg Geschichte. Deutschland zwischen Diktatur und Demokratie - Weltpolitik im 20. Jahrhundert</i> (『ブフナーの歴史講座 ドイツ 独裁と民主主義の間で - 20 世紀の世界政治』)	Pfändner	Buchner (Bamberg)	11- 13
18	1998 -9	1998	<i>ANNO Niedersachsen Band 4: Das 20. Jahrhundert</i> (『アノ ニーダーザクセ 第 4 巻: 20 世紀』)	B. Askani	Westermann (Braunschweig)	10
19	1998 -9	1994	<i>Epochen und Strukturen Band 1: Grundzüge einer Universalgeschichte für die Oberstufe</i> (『時代と構造 第 1 巻: ギムナジウム第二段階のための一般歴史の主な特徴』)	Geiss	Diesterweg (Frankfurt/M)	11- 13
20	1998 -9	1996	<i>Epochen und Strukturen Band 2: Vom Absolutismus bis zur Gegenwart</i> (『時代と構造 第 2 巻: 絶対主義時代から現在まで』)	Geiss	Diesterweg (Frankfurt/M)	11- 13
21	1999- 2000	1999	<i>Das waren Zeiten 4</i> (『様々な時代 4』)	Brückner	Buchner (Bamberg)	10
22	1999- 2000	1995	<i>Buchners Kolleg Geschichte Ausgabe C. Deutsche Geschichte zwischen 1880 und 1933 - Geschichte der Supermächte</i> (『ブフナーの歴史講座 C 版: 1880-1933 年のドイツの歴史 - 超大国の歴史』)	Golecki	Buchner (Bamberg)	11- 13
23	2000- 2001	1997	<i>Geschichtsbuch 4</i> (『歴史教科書 4』)	Hofacker	Cornelsen (Berlin)	10
24	2000- 2001	1996	<i>Buchners Kolleg Themen Geschichte. Zwischen demokratischen Aufbruch und totalitärer Herrschaft</i> (『ブフナーのテーマ別歴史講座 民主主義の始まりと全体主義支配の間』)	A. Golecki	Buchner (Bamberg)	11- 13
25	2000- 2001	2000	<i>Buchners Kolleg Themen Geschichte. Weimarer Republik und NS-Staat</i> (『ブフナーのテーマ別歴史講座 ヴァイマル共和国とナチス国家』)	Pfändner	Buchner (Bamberg)	12- 13
26	2004- 2005	2003	<i>Horizonte: Geschichte für die Oberstufe 2. Von der Französischen Revolution bis zum Beginn des 21. Jahrhunderts</i> (『ホリゾンテ(地平線) ギムナジウム第二段階 2: フ	F. Bahr	Westermann (Braunschweig)	11- 13

			ランス革命から 21 世紀の始まりまで』)			
27	2005-2006	2002	<i>Buchners Kolleg Themen Geschichte. Zwischen demokratischen Aufbruch und totalitärer Herrschaft</i> (『ブフナーのテーマ別歴史講座 民主主義の始まりと全体主義支配の間』)	A. Golecki	Buchner (Bamberg)	11-13
28	2005-2006	1997	<i>Geschichtsbuch, Neue Ausgabe 4: Von 1918 bis heute</i> (『歴史教科書 新版 4: 1918 年から今日まで』)	B. Mütter	Cornelsen (Berlin)	10
29	2005-2006	2000	<i>Kursbuch Geschichte: von der Antike bis zur Gegenwart</i> (『コースブック 古代から現代まで』)	R. Berg	Cornelsen (Berlin)	11-13
30	2007-2008	2007	<i>Forum Geschichte, Niedersachsen 9. Vom Ende des Ersten Weltkriegs bis 1945</i> (『歴史フォーラム ニーダーザクセン 9: 第一次世界大戦の終わりから 1945 年まで』)	F. Hofmeier	Cornelsen (Berlin)	9-10
31	2007-2008	2007	<i>Horizonte Niedersachsen 4</i> (『ホリゾンテ(地平線) ニーダーザクセン 4』)	Ch. Andres	Westermann (Braunschweig)	10

第二次世界大戦後の連合国軍による軍事占領が終わり、西側三連合国によって直接統治されていたドイツはドイツ連邦共和国として1949年5月に建国した。記録に見る限り、ニーダーザクセン州教育省が戦後最初に発表した、いわゆる認定教科書リストは同年3月に発表されている。明らかにこの時期においても、第二次世界大戦やナチス、ホロコーストは「歴史」として扱うには近過ぎる過去であり、認定教科書のほとんどは原始時代、中世が多く、時折フランス革命あたりの時代が取り扱われている教科書が見受けられる。また、この時期は教授計画も綿密なものではなく、認定教科書の数も後の時期と比べると圧倒的に少ない。

しかし一方で、1950年代認定教科書リスト8番(『12年間のヒトラー政権』1956年出版、1958年認定)や、1960年代認定教科書リスト1番(『私たちの歴史1933-1945年: 図表と文書にみる「第三帝国」』1963年出版、1964年認定)にあるように、この頃から概説的歴史教科書のほかに、特にナチス期のドイツやヒトラー政権のことにみに焦点を当てた教科書が用いられるようになってくる。ことに前者は、中等学校の学年を問わず全校種での学習を対象としている点が注目される。後者の『私たちの歴史1933-1945年』は、第1章:すべての権力はヒトラーに、第2章:経済の全体主義組織、第3章:何故なら彼らは違ったから、...「第三帝国」におけるユダヤ人追放、第4章:1933-1939年のヒトラーの外交政策、第5章:第二次世界大戦(1939-1945年)、第6章:抵抗運動、といった内容で、これも学年は指定されていないが、記述の綿密さや深い分析また字の小ささからしてギムナジウムの高学年教育に用いられたと考えられる。写真も多く掲載されているが、ユダヤ人に関するものは、現在の教科書に出てくる様な虐殺されたユダヤ人の死体の山といった、あからさまに残酷な写真はこの時代まだ見られない。同様のことが、1960年代認

定教科書リスト3番(『時代と人々 B版第4巻：20世紀のヨーロッパと世界』)や同4番(『歴史の主な特徴 1890年から現在まで』)にも言える。

1960年代に続き、1970年代前半も教科書認定数は少なく、この傾向は1980年代初頭にかけて続く。認定数の少なさのみでなく、認定教科書リストの整理の仕方も教科ごとや校種ごとに区切られているわけではなく、雑然と書名が羅列されているだけである。

占領期からの継続した視点としては、ヒトラー政権掌握やその政権を維持・拡大させたものとして、ドイツ産業経済界の動きとナチスとの関係が多くの紙面を割いて綿密に記述されている。1970年代認定教科書リスト3番(『世界史概説：第一次世界大戦から1945年まで』)などは特に顕著な例で、多くの統計資料が用いられ、ナチス政権樹立の経済的側面からの説明に力点が置かれている。他方、ユダヤ人迫害に関しては、やはり比較的抑えられた表現と分量で、章内の1つの節「総力戦と"Endlösung"(最終的解決、ユダヤ人絶滅を指す)で取り上げられているが、節内10個の考察課題のうち9番目「ユダヤ人問題の最終的解決：アウシュヴィッツ強制収容所」10番目「強制収容所と戦争経済」で、読み物をもとに与えられた設問について考えさせるのみである。

1980年半ばに差し掛かる頃から教科書認可リストは整備されかなり丁寧な記載になり、認可教科書数も格段に増加している。また教科書の内容を見ても、ナチス・ドイツを近現代史や現代史の中で扱うというよりは、ナチス政権やヒトラーといった国家社会主義時代、第三帝国時代といったように、細かく具体的な事象やテーマに絞った教科書が目立ち始めている。いわゆる「過去の克服」が公教育における歴史教育を通じて浸透し拡大していったことが認められる。ただ、ホロコーストに関しての記述が際立って多いということはなく、ユダヤ人への迫害と同じ程度に、白バラ運動などドイツ人によるナチス抵抗運動も取り上げられている。1980年代認定教科書リスト10番の『シリーズ：歴史教育モデル ナチズム(国家社会主義)』はその例である。

一方、強制収容所内部の悲惨な様子は、収容されていた人々によるスケッチなど視覚に訴えるものが増えているが、1980年代認定教科書リスト26番『歴史の概説 第2巻：1789年以降の近代』に掲載されているものは、実際の強制収容所が現在は博物館となっているところで見たと同じものが掲載されているのは注目される。こうした教室内と教室外の歴史教育の関連は多く見られる。例えば、ヒトラーがベルリンに次ぐ第二の政府拠点としていたベルヒテスガーデンに1999年10月、歴史博物館ドキュメンテーション・オーバーザルツベルクが設立されたが、ここでの展示と教科書記述に密接な関連が見受けられる。この博物館の管理・経営はベルヒテスガーデン地方基金が行うが、展示内容の責任はミュンヘンの現代史研究所が負っている(Institut für Zeitgeschichte 2007)。この点では、イギリスの教科書と戦争関連博物館との関連についても同様のことが言え、展示・掲示されている物が同じだけでなく、それに関する質問や疑問の投げかける視点などにも共通するものが多く、戦争に関する歴史問題で、社会の水平的コミュニケーションが図られていると言える。

いずれにしてもこの時期から、ナチス時代の過去が戦後ヨーロッパにおけるドイツの政治的・経済的位置づけとの関連で考察されるべきテーマとして取り上げる歴史観・世界観が顕著になり出している。戦後立ち上げた、欧州石炭鉄鋼共同体(European Coal and Steel Community)の時代

から現在の欧州連合(European Union)に至るまで、常にヨーロッパの統合の推進力的役割を果たし、国民に対してもヨーロッパ人としてのアイデンティティを強調してきた西ドイツ政府が考える国の方向性が表されている。加えて、1980年代からは教科書認定リストで歴史教育と政治教育が併記され扱われるなど、歴史は政治の一部として考える政府の政策が顕著に現れている。またこの時期は、ヴァイツゼッカーが大統領として「歴史に目を閉ざす者は未来に対しても盲目になる」という有名な演説を連邦議会で行った時期で(1985年5月)、西ドイツが政治的にも経済的にも外交的にも、ヨーロッパを中心とした国際社会で着実に回復し発展していった時期である。

そして現在までを見てみると、戦後、年代を経るごとに第二次世界大戦とナチス・ドイツの歴史についての掲載が、量的にも多くなりより詳細な記述がほどこされ、教授計画も綿密に具体的に提示されるようになった。ナチスやヒトラーの政策やホロコーストは、詳細にわたり多くの紙面を割き記述されている。戦争の原因に関しては、従来からの議論が広く展開されており、ヴァイマル共和国の政治構造の欠陥や、第一次世界大戦の処理としてのヴェルサイユ条約の問題点などがあげられている。また、写真や図といった視覚資料も、特にギムナジウムの第一段階では多く用いられている一方、ギムナジウム第二段階では、綿密な描写や解説がほどこされ、公文書館で所蔵されている歴史史料も掲載して分析させるなど、かなり高度な歴史学習が準備されている。

近年の特徴として、ホロコーストをはじめとしたナチスの残虐行為に対し「傍観者」であった人々の「責任」について目を向ける視点が加わっている。これに呼応した傾向とみられるのが、「地元」とナチスの関係についての記述である。このことは、戦争やホロコースト関係の博物館での学芸員・研究員へのインタビューで得られた結果と合致する。つまり、ホロコーストや戦時中の残虐な行為は、アウシュヴィッツで起こっただけでなく、自分たちの祖父母の身近で起こった出来事であり、自分史とも深く関わっていることを認識させるものである。

IV イギリスの例：ナショナル・カリキュラム導入以降

ヨーロッパ大陸とは異なり、イギリスでは教科書そのものが、教育・研究上も政治的にも議論や調査の的となることは稀であった。学校教育における歴史教育は、100年以上にわたって行われてきているが、歴史科が必須科目になったのは1988年教育改革法(Education Reform Act of 1988)以降のことである。それ以前の歴史教育は、必須でもなく、内容についても中央政府が干渉することはなかった。1980年代までのイギリスの歴史教育は、いわゆる「The Great Tradition(偉大なる伝統)」の言葉に代表されるように、アングロ中心主義、ナショナリズム、保守主義の側面が前面に押し出されていた(Foster and Karayianni 2007; Marsden 2001)。大英帝国の歴史を中心に、各王朝における出来事や偉大な人物の業績を年代ごとに羅列するといった内容に限られていた。しかし、同法によるナショナル・カリキュラム(National Curriculum) 導入以降は、教えるべき内容も全国統一になり中央政府により指示されるようになった。加えて、年代順の事象の羅列的「受身」の歴史学習から、歴史の事象や人々の行動に関する解釈に目標をおく

「能動的」な学習となっていた。このナショナル・カリキュラムの導入以来、教科書に関する掲載内容への注目が増し、政治、経済、ナショナルアイデンティティ等の視点からの議論も盛んになっている(Foster and Crawford 2006; Marsden 2001: 2)。

網羅すべき主な内容は以下の通りである。

表5: ナショナル・カリキュラム

表5-1:ステージ別歴史科学学習内容

段階(ステージ)	学年	年齢	評価
Key Stage 3	7	11-12	1. ローマ帝国 2. 中世の世界:1066~1500年のイギリス 3. 連合王国の形成:王位、議会、人々 1500~1750年 4. 拡大、貿易、工業:イギリス 1750~1900年 5. 第二次世界大戦の時代
	8	12-13	
	9*	13-14	
Key Stage 4	10	14-15	1. イギリス民主主義の発達 2. 国際紛争と協調、含:第二次世界大戦とその影響 3. イギリス、ヨーロッパ、世界の経済・社会・文化的変化 4. 1945年~約20年前における国際紛争と協調 ・第二次世界大戦以降の超大国の関係と発展 ・海外におけるヨーロッパ各帝国の植民地崩壊の理由 ・国際連合と第二次世界大戦以降の地球規模の協力 ・1945年から1970年頃までの間に、ヨーロッパ各国が政治的・経済的に互いに引き寄せあうようになった程度とその理由
	11**	15-16	

*英語、数学、科学について国内統一テスト(National Tests)を行う

**大部分の生徒がGCSE (General Certificate of Secondary Education)、その他国が定める中等教育修了認定を受ける

表5-2: Key Stage 3「第二次世界大戦の時代」の学習内容

1930年代ヨーロッパの発展	第一次世界大戦の遺産 1930年代の協力体制と紛争
戦争の経験	ヨーロッパ、アジア、その他世界の地域における戦争の経験と影響 戦時中指導者の役割(含、ヒトラー、チャーチル、スターリン、ルーズベルト) 戦後の国民生活 ホロコースト 広島と長崎への原子爆弾投下
戦争の直接的影響	ヨーロッパにおける国境再画定 国際連合の起源(含、国連人権宣言)、難民

1 The General Certificate of Secondary Education: イギリス(スコットランドを除く)における義務教育修了を認定する一連の試験で、大方の生徒が14-16歳の間に受験する。通常、GCSEはA-level受験要件である。A-level(Advanced level): イギリス(スコットランドを除く)における大学入学資格認定試験で、中等教育段階の最終2学年の間に受験する。

表5-3: Key Stage 4「第二次世界大戦の時代：1933～1945年」の学習内容（必須）

目的	20世紀の大きな危機がイギリス、ヨーロッパ、他の世界にもたらした影響について理解する
関連	この段階の他の全てのスタディ・ユニットと関連させる
焦点	戦争の原因、総力戦の特徴、イギリスと他の国々の人々に与えた影響、戦争によってイギリス、ヨーロッパ、世界におきた変化の概略 教師は、生徒に次のことを理解させるよう努める： 様々な原因があることと各々の原因の重要性、戦争原因にまつわる歴史的論争、戦前・戦中・戦後において発揮した神話やプロパガンダの力の例、歴史資料としての映画、写真、個人の記憶、博物館や歴史都市訪問の活用、下記概念や「宥和」「攻撃」「前線」「強制収用所」「ホロコースト」「電撃戦争」といった特別な歴史用語を用いた歴史理解
概念	全体主義、ファシズム、ナチズム、民主主義、虐殺、戦争犯罪、プロパガンダ

表5-4: Key Stage 4「第二次世界大戦の時代：1933～1945年」の項目別学習内容

	政治	経済・技術・科学	社会・宗教	文化・芸術
必須情報	<ol style="list-style-type: none"> 戦争の原因：ヒトラー、イギリスと宥和、ポーランド侵略、1939年 連合国・枢軸国の地図、戦場、1939～1945年 戦時の指導者：チャーチル、ルーズベルト、スターリン、会談 ヨーロッパ政治における戦争の影響、超大国、冷戦の起源 	<ol style="list-style-type: none"> 技術と戦争の性格 原子爆弾 戦争の経済的結果 	<ol style="list-style-type: none"> 戦争の犠牲者：虐殺、ホロコースト、難民、ホームレス、爆撃の被害者、戦争捕虜 イギリスの市民生活 	<ol style="list-style-type: none"> 放送 解が、ポスター、戦争映画、文学、娯楽
典型的情報	<ol style="list-style-type: none"> ヒトラーの目的：わが闘争、全体主義的独裁、人種観、生存圏、条約改正、ライントラント、併合、チェンバレンとミュンヘン、1938年、ポーランドへの保障、ナチ・ソ連協定 西部戦線、東部戦線、北アフリカ、大西洋と太平洋 テヘラン、ヤルタ、ポツダム ヨーロッパ分割、東欧共産主義勢力、西欧の複数政党民主主義、アジア植民地の衰退、トルーマン・ドクトリン、イスラエル建国、1948年 	<ol style="list-style-type: none"> 戦車、電撃、エルアラメイン、1940年、レーダー、戦略的爆撃、ダムハスターズとドレスデン、船と潜水艦、航空母艦；ミッドウェイ、珊瑚海；大西洋戦争、護送船団、ダンケルク、1940年、ノルマンディ上陸、1944年、アイラント・ホッピング、沖縄、硫黄島 マンハッタン計画 ヨーロッパ・ソ連・日本の経済疲弊、アメリカの優越、マーシャル・プラン 	<ol style="list-style-type: none"> アウシュヴィッツ、スターリンの犠牲者、電撃攻撃、ドレスデン、広島、レニングラード陥落、批判、総力戦の合理化、プロパガンダ、戦後世界への希望、ビヴァレッジ報告、労働党勝利、1945年 	<ol style="list-style-type: none"> プロパガンダのためのラジオ使用、士気、漫画

(*History in the National Curriculum (England)*. The Department of Education and Science, March 1991; *History for ages 5 to 16: Proposals of the Secretary of State for Education and Science. National Curriculum*. The Department of Education & Science, July 1990より)

表6:今回調査したイギリスの教科書

	出版年	教科書名	主な執筆者	出版社	学年
1	2000	<i>Britain 1914-2000</i>	D. Murphy	Collins	A-Level (17-8歳)
2	2000	<i>Modern World History</i>	T. McAleavy	Cambridge U P	10~11年
3	2001	<i>Modern World History for AQA² Specification B. Core</i>	D. Ferriby; J. McCabe	Heinemann	10~11年
4	2003	<i>GCSE History for WJEC Specification A</i>	P Barnes; R. Evans	Heinemann	10~11年
5	2001	<i>Modern World History for Edexcel³ Specification A. Core</i>	M Chandler; J. Wright	Heinemann	10~11年
6	2003	<i>History Scheme Book 3: Into the Twentieth Century. Foundation Edition</i>	J. Kidd; R. Rees	Heinemann	10~11年
7	2001	<i>Modern World History for AQA Specification B. Foundation</i>	T. Hewitt; J. Shuter	Heinemann	10~11年
8	2000	<i>Modern World History</i>	D. Ferriby; D. Hansom	Heinemann	10~11年
9	1996	<i>The Modern World. Heinemann Secondary History Project</i>	N. Kelly; R. Rees	Heinemann	10~11年
10	1996	<i>The Modern World: Foundation Edition. Heinemann Secondary History Project</i>	R. Rees	Heinemann	10~11年
11	1989	<i>People events in the Modern World</i>	T. Nicholas	Hodder & Stoughton	10~11年
12	1990	<i>Work Out Modern World History</i>	J. Nichol	Macmillan	10~11年
13	1996	<i>Our World this Century</i>	D. Heater	Oxford U P	10~11年
14	2001	<i>The Modern World</i>	A. Todd	Oxford U P	10~11年
15	2004	<i>Folens History. Technology, war and identities: a world study after 1900</i>	A. Wilkes	Folens (B4)	10~11年

2 The Assessment and Qualifications Alliance: イギリス国内にある三つの公的試験機関のひとつで、義務教育修了証明にあたる GCSE や、大学入学資格認定にあたる A-level などの試験を行ない、そのための生徒や教師への支援も含めて行なう。AQA は国内 GCSE の 51%、A-level の 43%をつかさどっている。

3 Edexcel も上記 AQA と同様、GCSE 等各種資格認定を与える機関。

戦争の原因については、ドイツの教科書と同様に、ヴェルサイユ体制との関連で述べられていることが多い。それと同時に、ナチズムの背景とも帰結ともとれる扱いとして、ドイツにおける家族関係、家庭や社会における男女の役割など、民族的血統を守ろうとするこの時代のドイツ社会の側面を語る記述やポスターなどがよく載せられている。

これに対して、イギリス国内社会にみる戦争の影響として、女性の役割が社会でよく認識されるようになったことが、多くの教科書で述べられている。"Home Front"、「銃後の国民」として国家と社会と家庭によく貢献したことが、戦後のイギリス社会における女性の地位向上の土台となったという視点で書かれていることが多い。このことは、2005年7月9日にエリザベス女王が、女性にとっての第二次世界大戦の経験について公式の言葉を述べたことと無関係ではなく、戦争に関して国としてのある一定の公の歴史観を貫く姿勢を反映しているものであると言われる(Crawford and Foster 2007)。また、ナチ抵抗運動として、レジスタンスがイギリスにもあったことを紹介し、スパイ活動をする女性の姿が写真とともに紹介されてりしている。

昨今、歴史解釈問題で言及されることが多くなってきたイギリスなど連合軍によるドイツ市民(特にドレスデン、ハンブルク等)を狙った無差別爆撃の問題であるが、多くの教科書で触れられてはいるが、詳しい記述やその問題性に関する設問などはリスト15番を除いて稀であり、その紙幅は決して大きくはない。

概してイギリスの場合、戦争は「戦闘」として捉えられていることが多く、部隊の動きや作戦に関する図解や地図、詳しい記述が多い。これは、「戦争」とは殺人であり、不幸な過去であり、反省すべき人間の行為として記述や写真などで表現されているドイツと対照的である。

V まとめにかえて

ドイツの歴史教科書は時代を経て、第二次世界大戦、ナチス、ホロコーストといった「暗い過去」に関する記述に多くの紙面が割かれ、詳細な描写がほどこされてきた。ヨーロッパの歴史教科書を比較研究するニコルズ(Nicholls 2006: 40)は、"Germany had no choice."と述べているが、ドイツにも戦後多くの選択肢があった。戦前日本やドイツのみならず、人権侵害や無差別的市民の大量殺りくといった暗い過去を持つ「民主主義国家」も少なくなく、その過去を後世に伝える方法や考えは実に様々である。したがって、如上にみた徹底した歴史教育は、明らかにドイツの選択であったと言える。ヨーロッパの戦後再構築構想を背景に、西ドイツは第二次世界大戦における侵略とホロコーストの歴史に向き合い近隣諸国と共通の理解を築くことを、国の根源に関わる政治的課題として取り組んできた。ヴァイツゼッカーの例を上げるまでもなく、戦後西ドイツには「国の良識」を体現してきたとされる政治・社会のエリートがこうした歴史政策を始動し、共通の歴史、共通の地理、共通の祖先をもつことによって、人類は共通の未来もてるという共存の理念を実行してきた。またドイツの場合、こうした政府や政治家の歴史政策・歴史観を牽引力としながら、1960年代後半の学生運動やその他様々な社会運動が「過去の克服」への大きな原動力となってきた。この点戦後日本に関しては、「1人のギュンター・グラスも出なかった」と指

摘が厳しい(金1995: 13)。ドイツでも、西側資本主義批判やマルクス主義史観が「最も簡単な説明」とされることもあったが、こうした社会運動は体制批判にとどまらず、ナチスとホロコーストの過去に沈黙してきた「親たち世代への怒り」とともに、広く人々に政治課題としての歴史を見つめる視点を広げ、「過去の克服」に大きな転機と進展をもたらしてきたと言える(Hildebrand 1984)。

国際政治の文脈と歴史教育は密接な関係にある。UNESCOが、教科書における「共通の歴史認識」を提唱したのも、戦後世界の平和的国际秩序の構築という時代の要請を反映したものであった。その後、歴史教科書を介した国際対話の試みに長い歴史と経験を持つヨーロッパでは、地域共同体を通じて、いわゆる教科書対話が盛んに唱えられ実践されてきた(Council of Europe 1974; Georg-Eckert-Institut 1951)。ヨーロッパでは、「統合」という大きな文脈変化をうけ、歴史と向き合う姿勢や視点に最近いくつか顕著な変化がみてとれる。従来はドイツのホロコーストに極端に焦点をあてた第二次世界大戦の経験を、これからはヨーロッパ全体の歴史として解釈し記憶しようという動きがある。こうした動きに対しては、ドイツの過ちを相対化するものとして批判の声があがる中、2002年にEUが発表したManifestations of Antisemitism in the EU 2002-2003は、象徴的な表明であったと考えられる。第二次世界大戦の「コスモポリタンの記憶」や「ホロコースト・メモリーのコスモポリタン化」といった新しい歴史観は、こうした動きのひとつであると言える(Levy and Sznajder 2001; Welzer 2007)。

歴史を解釈する潮流も変化している。昨今の歴史学の論文では、「集団の記憶」(collective memory)ブームに警鐘を鳴らすものもある。歴史は社会科学の方法論に基づいてテストされるものというよりは、国家や社会集団の歴史というものは、そのメンバーによって記憶され共有されるものが歴史として認識され解釈されるという考えに歴史研究者が取りつかれ、ある種の脅迫観念となってしまうという指摘である(Bourke 2004)。確かに、「真実」や「正しい歴史」を教えるというよりは、むしろ出来るだけ学習者自身に解釈させ考えさせるという教育方針は、設問が多く設けられている教科書にもよくみてとれる。いずれにしても、こうしたドイツやヨーロッパでの歴史問題への取り組みは、アジアにおける歴史認識問題を懸案とする日本に少なからぬ示唆を与えるものであると言える。

引用文献

- 金定立. 1995 「日本断想—日韓条約と現在考—」寿岳章子、祖父江孝男編.『無答責と答責：戦後50年の日韓関係』御茶ノ水書房、10-58ページ。
- 近藤孝弘. 1998.『国際歴史教科書対話』中央公論社。
- 近藤孝弘. 2005.『ドイツの政治教育：成熟した民主社会への課題』岩波書店。
- 柴田政子. 2008a.「アジアにおける日本の『歴史問題』—戦後構想と国際政治文脈を比較の視点から」近藤孝弘編.『東アジアの歴史政策—日中韓 対話と歴史認識』明石書店、210-229ページ。

- 柴田政子. 2008b. 『ドイツにおける歴史教科書問題への取り組み：日本との比較における戦後処理の一側面』つくば：筑波大学出版。
- Aronowitz, Stanley, and Henry A. Giroux. 1991. "Textual Authority, Culture, and the Politics of Literacy," in M. W. Apple and L. K. Christian-Smith (eds.), *The Politics of the Textbook*, New York, Routledge.
- Berger, Stefan. 2003. "Former GDR Historians in the Reunified Germany: An Alternative Historical Culture and its Attempts to Come to Terms with the GDR Past," *Journal of Contemporary History*, 38 (1), pp. 63-83.
- von Borries, Bodo. 2003. "The Third Reich in German History Textbooks since 1945," *Journal of Contemporary History*, 38 (1), pp.45-62.
- Bourdieu, Pierre, and Jean-Claude Passeron. 1977. *Reproduction in Education, Society and Culture*. London, Sage Publications.
- Bourke, Joanna. 2004. "Introduction 'Remembering' War," *Journal of Contemporary History*, 39 (4), p.475.
- Conrad, Sebastian. 2003. "Entangled History: Versions of the Past in Germany and Japan, 1945-2001," *Journal of Contemporary History*, 38 (1), pp. 85-99.
- Council of Europe. (ed.). 1974. *Religion in School History Textbooks in Europe*. Strasbourg, Council of Europe.
- Crawford, Keith A. and Stuart J. Foster. 2007. *War, Nation, Memory: International Perspectives on World War II in School History Textbooks*. Charlotte, Information Age Publishing, Inc.
- Evans, Richard J. 2003. "Introduction: Redesigning the Past: History in Political Transitions," *Journal of Contemporary History*, 38 (1), pp.5-12.
- Evans, Richard J. 2004. "Introduction," *Journal of Contemporary History*, 39 (2), pp. 63-167.
- Foster, Stuart J. and Keith A. Crawford. (eds.) 2006. *What Shall We Tell the Children? International Perspectives on School History Textbooks*. Greenwich, Information Age Publishing.
- Foster, Stuart, and Eleni Karayianni. 2007. "Portrayals of Arab-Islamic Peoples in English History Textbooks" (Atman Foundation Project Report) London, Institute of Education, University of London.
- Frei, Norbert. 1999. *Vergangenheitspolitik: Die Anfänge der Bundesrepublik und die NS-Vergangenheit*. München, Deutscher Taschenbuch Verlag.
- Georg-Eckert-Institut. (ed.). 1951. *Internationales Jahrbuch für Geschichts Unterricht 1*. Braunschweig, Albert Limbach Verlag.
- Hildebrand, Klaus. 1984. *Geschichte der Bundesrepublik Deutschland: Von Erhard zur großen Koalition 1963-1969*. 4. Stuttgart, Deutsche Verlags-Anstalt.
- Institut für Zeitgeschichte. 2007. *Gesamtverzeichnis 2007*. München, Institut für Zeitgeschichte.
- König, Helmut. 2003. *Die Zukunft der Vergangenheit: Der Nationalsozialismus im politischen*

- Bewußtsein der Bundesrepublik*. Frankfurt am Main, Fischer Taschenbuch Verlag.
- Levy, Daniel and Natan Sznaider. 2001. *Erinnerung im globalen Zeitalter: Der Holocaust (Edition Zweite Moderne)*. Frankfurt am Main, Suhrkamp Verlag.
- Marsden, William. 2001. *The School Textbook: Geography, History and the Social Studies*. London, Woburn Press.
- Meckel, Markus. 1993. "Vergangenheit als gesamtdeutsche Aufgabe," *Transit*, (6) Fall, pp.121-132.
- Nicholls, Jason. 2003. "Methods in School Textbook Research," *International Journal of Historical Learning Teaching and Research*, 3 (2), pp. 11-27.
- Nicholls, Jason. 2006. "Are Students Expected to Critically Engage with Textbook Perspectives of the Second World War? A comparative and international study," *Research in Comparative and International Education*, 1 (1), pp. 40-55.
- Reichel, Peter. 1999. *Politik mit der Erinnerung: Gedächtnisorte im Streit um die nationalsozialistische Vergangenheit*. Frankfurt am Main, Fischer Taschenbuch Verlag.
- Shibata, Masako. 2005. *Japan and Germany Under the U.S. Occupation: A Comparative Analysis of Post-War Education Reform*. Lanham, Lexington Books.
- von Sternburg, Speck. 1904. "American and German University Ideals; An address at the commencement of the University of the South. *Sewanee Review* (July), p. 365.
- Welzer, Harald. (ed.) 2007. *Der Krieg der Erinnerung: Holocaust, Kollaboration und Widerstand im europäischen Gedächtnis*. Frankfurt am Main, Fischer Taschenbuch Verlag.
- Wolfrum, Edgar. 1999. *Geschichtspolitik in der Bundesrepublik Deutschland: Der Weg zur bundesrepublikanischen Erinnerung 1948-1990*. Darmstadt, Wissenschaftliche Buchgesellschaft.

-
- 1 アデナウアーはユダヤ系週刊誌 *Allgemeinen Wochenzeitung der Juden* のインタビューでこれを表明した。
 - 2 東ドイツのみならず、第二次世界大戦やそこで起きたホロコーストなど自国の暗い過去について積極席に議論したり教育したりすることは、共産主義政権がつくった多くのタブーのひとつであった。ユダヤ博物館教育文化センター(チェコ共和国・ブラハ)学芸員 Miroslava Ludv 談 ov 氏(2008年8月18日インタビューより)。
 - 3 テオドア・ホイス・ギムナジウム(Theodor-Heuss-Gymnasium)のファウエ(Joachim Pfaue)教諭へのインタビューより(2004年9月15日)。
 - 4 2008年版は下記サイト:(<http://ifz-muenchen.de/fileadmin/images/Vierteljahrshefte/CD/IfZ-Schriften-Gesamtverzeichnis-2008.pdf>)
 - 5 ドキュメンテーション・センター・ニュールンベルクの研究員ディーツフェルビンガー氏(Dr. Eckart Dietzvelbinger)のインタビュー(2007年8月4日)。
 - 6 公立学校のみ適用され、Independent School等私立学校は適用外であり、教授内容は学校の判断に一任されている。
 - 7 ただし、ドイツの良識とみなされてきたグラス(Günter Grass)は、最近になって少年時代はナチスの武装親衛隊のメンバーであったことを告白し、議論を沸き起こした。

